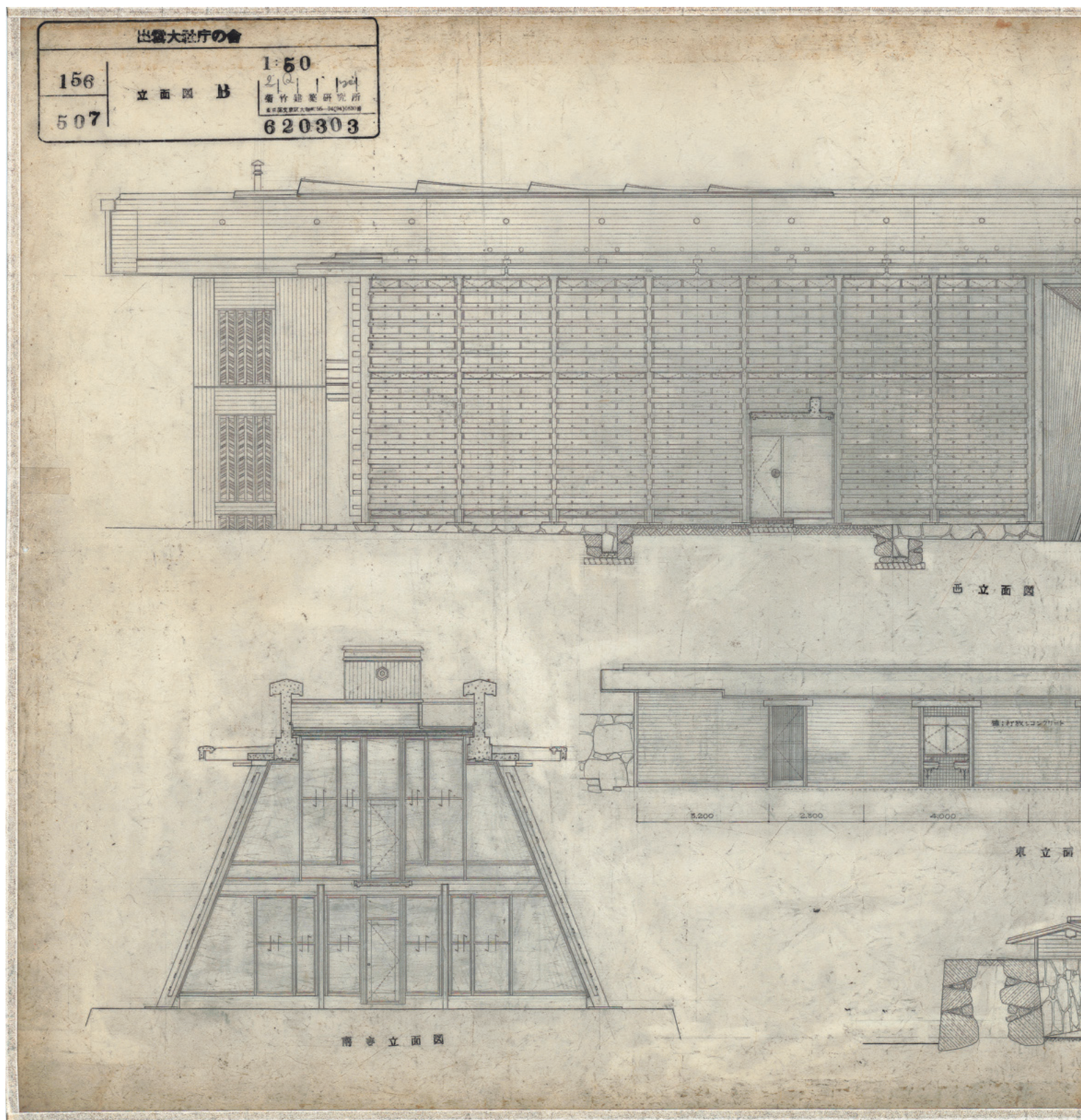
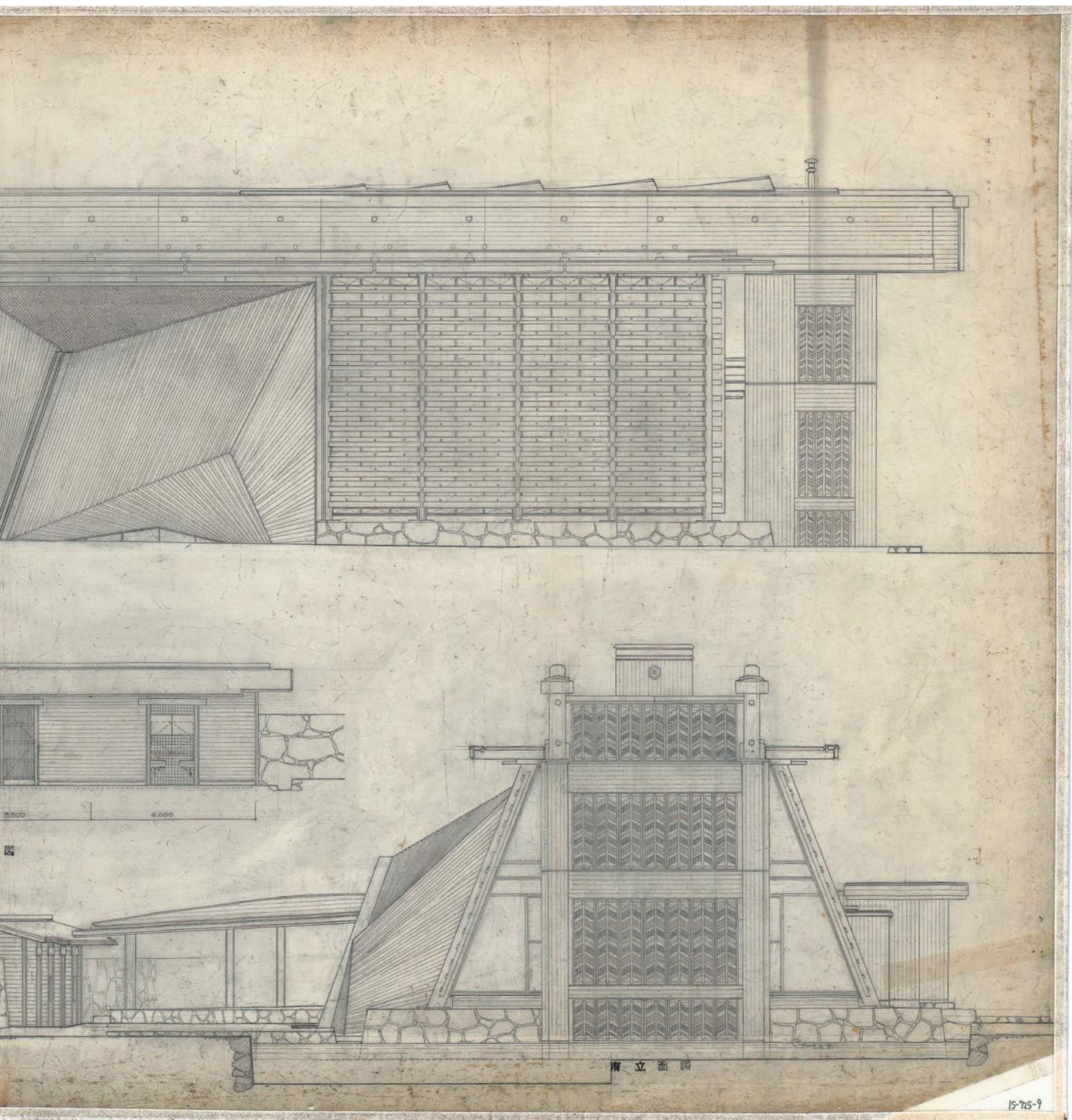




出雲大社庁の舎 Izumo Taisha, Cho no Ya

1963 | 菊竹清訓 KIKUTAKE Kiyonori | 島根県出雲市 Izumo, Shimane | 現存せず Demolished in 2016



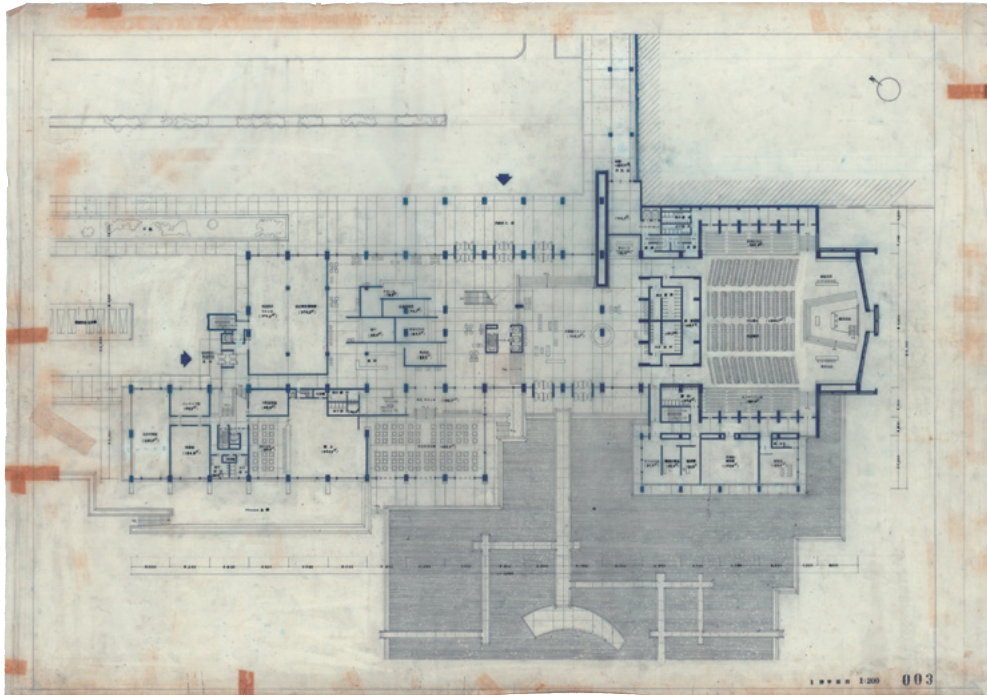
立面図 B | 1:50 | 鉛筆、インク、トレーシングペーパー | 542×1036

Elevation B | Pencil and Ink on Tracing Paper

出雲大社の社務所および宝物殿として建設された施設であり、刈り取った稲を干す「稲架」のイメージによって、出雲大社との連想を生み出しつつ、そのイメージをダイナミックな構造形式で実現した。

国立京都国際会館

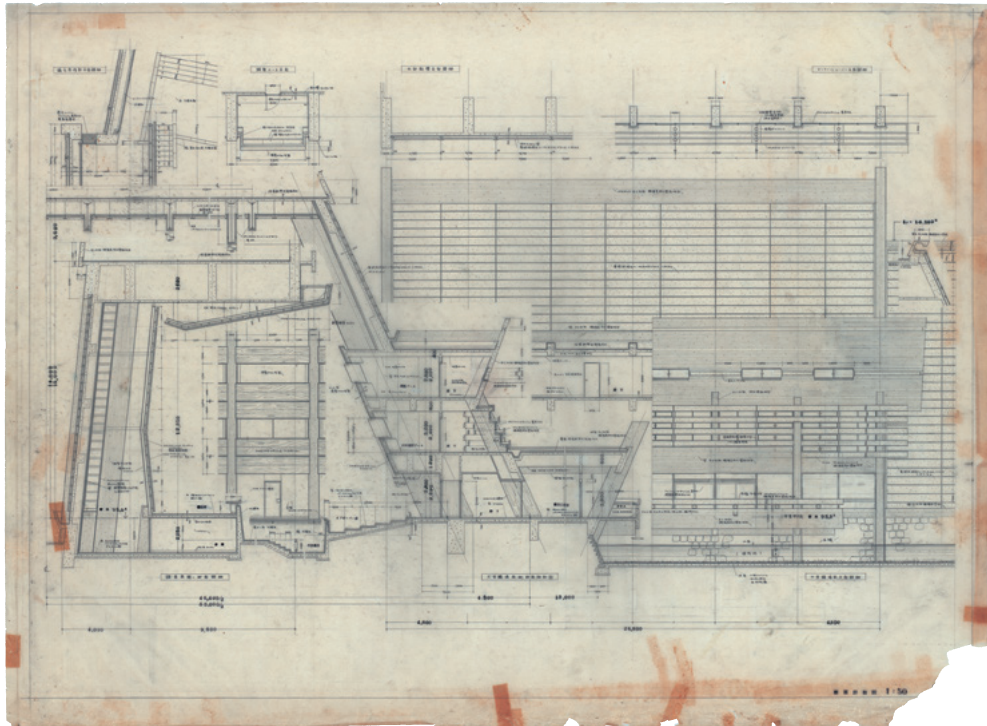
1966 | 大谷幸夫 OTANI Sachio | 京都市左京区 Sakyo, Kyoto | 現存 Existing



1階平面図 | 1:200 | - | 鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー | 850×1180

1st Floor Plan | Pencil, Color Pencil and Ink on Tracing Paper

日本初の国立国際会議場であり、1963年に公開設計競技方式（コンペ）が行われ、195点の応募作品の中から大谷幸夫案が最優秀作品に選定され、建設された。敷地は、比叡山を背景にした穏やかな山間の宝ヶ池に隣接しており、自然環境との調和のため、台形と逆台形の断面をもつ空間の組み合わせという構成が用いられ、周囲に対する圧迫感を抑えている。



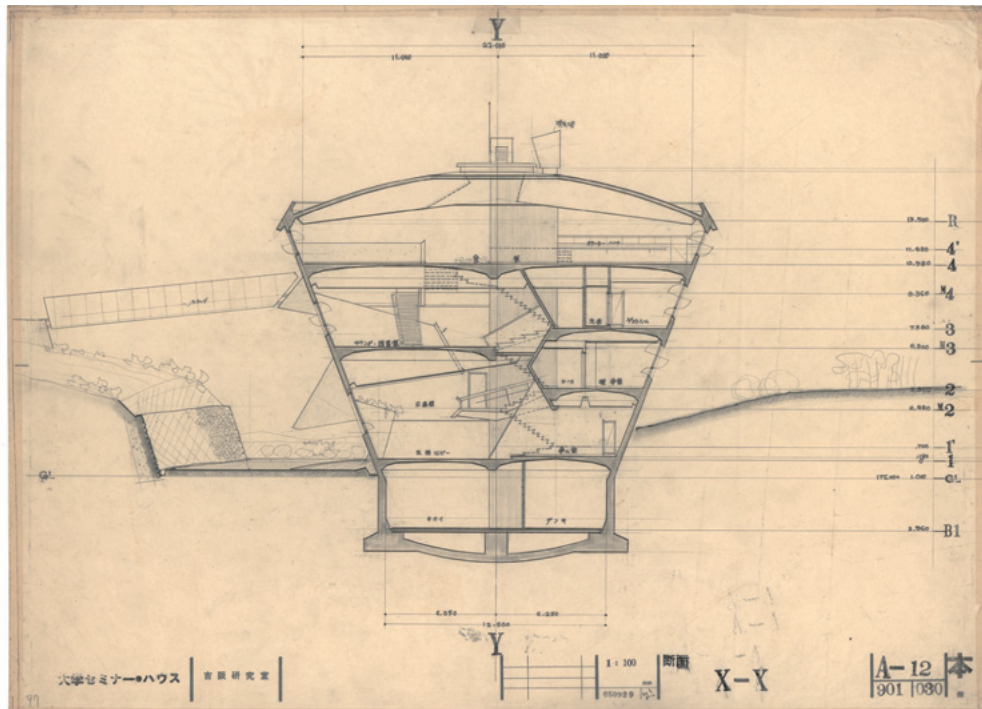
断面詳細図 | 1:50 | - | 鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー | 840×1145

Detailed Section | Pencil, Color Pencil and Ink on Tracing Paper

この断面詳細図も設計競技において提出が求められた図面であり、設計競技といえども、実施設計に近い図面が要求されたことがわかる。空間や外観はダイナミックであり近代的であるが、一方で、合掌造りや神社の社殿を彷彿とさせるような日本の伝統も感じさせる。

大学セミナーハウス

1965 - | 吉阪隆正 + U 研究室 YOSIZAKA Takamasa + Atelier U | 東京都八王子市 Hachioji, Tokyo



本館 断面 X-X | 1 : 100 | 1965 | 鉛筆、トレーシングペーパー | 401 × 553

Main Building X-X Section | Pencil on Tracing Paper

吉阪隆正は1950年から1952年までル・コルビュジエのアトリエに勤務し、コンクリート打放しの彫刻的造形へと変貌を遂げつつあったル・コルビュジエを目の当たりにしている。その影響は、大学セミナーハウスでは、逆ピラミッド型という彫刻的なコンクリートの造形、内部の吹抜け、斜めの壁、スキップフロア状の床構成の組合せによるダイナミックな空間に見ることができる。



1期 配置図 | - | - | 鉛筆、トレーシングペーパー | 272 × 397

1st Phase Site Plan | Pencil on Tracing Paper

小サイズの図面に細密画のように書き込まれた全体構成図である。本館はモニュメンタルであるが、宿泊用キャンピングは、中庭を取り囲みつつ、自然環境の中にクラスター状に配置されていることがわかる。